

国立民族学博物館研究報告 vol.16-3; 表紙, 目次ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	16
号	3
発行年	1992-03-11
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009203

1991—16_卷3_号

国立民族学博物館 研究報告

●
ボリビアの農民

——農民の「行動の記録」の分析（その2）—— 藤井龍彦

モンゴルにおけるウマ、ウシ、ヒツジの搾乳儀礼

——祝詞にもとづく再構成の試み—— 小長谷有紀

首長制とキリスト教

——ミクロネシア、ポーンベイ島とコシャエ島の事例—— 中山和芳

Materialien zu einer Liste altindischer Verbalformen:

4. *dogh|dugh|doh|duh*, 5. *sav|su*, 6. ¹*savⁱ|sū*, 7. ²*(savⁱ||) sū*

————— Toshifumi Gotō



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

16 卷 3 号

1991 年

目 次

ボリビアの農民

—農民の「行動の記録」の分析(その2)—藤井龍彦.....521

モンゴルにおけるウマ, ウシ, ヒツジの搾乳儀礼

—祝詞にもとづく再構成の試み—小長谷有紀.....589

首長制とキリスト教

—ミクロネシア, ボーンベイ島とコジャエ島の事例—中山和芳.....633

Materialien zu einer Liste altindischer Verbalformen:

4. *dogh/dugh/doh/duh*, 5. *sav/su*, 6. ¹*savⁱ/sū*, 7. ²*(savⁱ)/sū*
.....Toshifumi Gotō.....681

彙 報709

国立民族学博物館研究報告寄稿要項712

国立民族学博物館研究報告執筆要領713

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 16 No. 3

1991

FUJII, Tatsuhiko	Life of the Bolivian Peasants: An Analysis of Diary Entries (2)	521
KONAGAYA, Yuki	Milking Ritual of Mares, Cows and Ewes in Mongolia	589
NAKAYAMA, Kazuyoshi	Chieftainship and Christianity on Pohnpei and Kosrae, in Micronesia.....	633
GOTŌ, Toshifumi	Materialien zu einer Liste altindischer Verbalformen: 4. <i>dogh/dugh/doh/duh</i> , 5. <i>sav/su</i> , 6. ¹ <i>savⁱ/sū</i> , 7. ² <i>(savⁱ) sū</i>	681

彙報

(平成3年7月～
平成3年9月)

シンポジウム

◎特別研究「20世紀における諸民族文化の伝統と変容」

日時 平成3年9月26日(木)～27日(金)

場所 国立民族学博物館

摘要 特別研究「現代日本文化における伝統と変容」のあとをうけて、1991年度より特別研究「20世紀における諸民族文化の伝統と変容」が10年計画で開始された。さきの特別研究が、近代から現代にかけての日本の社会・文化・生活様式の変容を追究したものであったのにならして、この特別研究は、これまで個別的に調査・研究がすすめられてきた世界の諸民族文化の変容過程を総合的に比較することによって、世界の文化についての20世紀の意味を分析し、21世紀の人類文化像への展望をひらこうと試みるものである。この特別研究の全体像を探るべく、プレシンポジウム「20世紀とは何か」が開催された。

実行委員会

(実行委員長)

端 信行 国立民族学博物館第三研究部

(実行委員)

大塚 和夫 国立民族学博物館第三研究部

大森 康宏 国立民族学博物館第五研究部

栗田 靖之 国立民族学博物館第二研究部

近藤 雅樹 国立民族学博物館第一研究部

櫻井 哲男 国立民族学博物館第五研究部

庄司 博史 国立民族学博物館第三研究部

塚田 誠之 国立民族学博物館第二研究部

中牧 弘允 国立民族学博物館第一研究部

森 明子 国立民族学博物館第三研究部

吉田 憲司 国立民族学博物館第四研究部

(事務局)

新見 惇一 国立民族学博物館管理部研究協力課

今田 好子 「20世紀」事務局

討論参加者

石毛 直道 国立民族学博物館

石森 秀三 国立民族学博物館

梅棹 忠夫 国立民族学博物館

大塚 和夫 国立民族学博物館

大森 康宏 国立民族学博物館

熊倉 功夫 筑波大学

近藤 雅樹 国立民族学博物館

田村 克己 国立民族学博物館

塚田 誠之 国立民族学博物館

森 明子 国立民族学博物館

吉田 憲司 国立民族学博物館

報告者およびコメンテーター

井上 忠司 甲南大学(民博客員)

加藤 晃規 大阪大学

川北 稔 大阪大学

櫻井 哲男 国立民族学博物館

庄司 博史 国立民族学博物館

高田 公理 愛知学泉女子短期大学

端 信行 国立民族学博物館

宮本 正興 大阪外国語大学

山下 晋司 東京大学

日程

9月26日(木)

(司会 石毛 直道)

11:00 あいさつ 梅棹 忠夫
趣旨説明 石毛 直道

12:00 問題提起：20世紀とは何か
端 信行
(司会 石森 秀三)

13:30 都市論からみた20世紀
加藤 晃規

15:00 コメントおよび討論 山下 晋司
(司会 森 明子)

15:15 国民形成と言語政策—近代国家における国語— 庄司 博史

16:45 コメントおよび討論 宮本 正興

9月27日(金)

	(司会 大塚 和夫)	13:30	20世紀の感性—おもに視聴覚をめぐって—	櫻井 哲男
10:30	交通革命からみた20世紀			
	高田 公理	15:00	コメントおよび討論	井上 忠司
12:00	コメントおよび討論			(司会 端 信行)
	川北 稔	15:15	総括討論	
	(司会 吉田 憲司)			

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官職	出発	帰国	行先
南 真人	助手 (第三研究部)	3. 7. 2	3. 7.18	インド
大森 康宏	助教授 (第五研究部)	3. 7. 4	3. 8.20	フランス, オーストリア, ドイツ連邦共和国, スイス
庄司 博史	助教授 (第三研究部)	3. 7.10	3. 9.12	中国
黒田 悦子	助教授 (第四研究部)	3. 7.11	3. 8.31	メキシコ
秋道 智彌	助教授 (第一研究部)	3. 7.15	3.10.19	マレーシア, インドネシア
松澤 員子	教授 (第一研究部)	3. 7.18	3. 8.13	台湾
佐々木高明	教授 (第二研究部)	3. 7.19	3. 7.29	ソ連
宮本 勝	助教授 (第二研究部)	3. 7.19	3. 8. 4	マレーシア
和田 正平	教授 (第三研究部)	3. 7.27	3. 9. 1	ケニア, タンザニア
松原 正毅	教授 (第一研究部)	3. 7.29	3. 8.25	トルコ, 連合王国
小山 修三	教授 (第四研究部)	3. 7.31	3.10.28	オーストラリア
中牧 弘允	助教授 (第一研究部)	3. 8. 1	4. 3.31	アメリカ合衆国
友枝 啓泰	教授 (第四研究部)	3. 8. 2	3. 9.30	ペルー
杉本 尚次	教授 (第三研究部)	3. 8. 7	3. 8.31	アメリカ合衆国
藤井 知昭	教授 (第五研究部)	3. 8. 8	3. 8.25	タイ
佐藤 浩司	助手 (第五研究部)	3. 8. 9	3. 9. 9	インド
須藤 健一	助教授 (第四研究部)	3. 8.12	3. 8.30	中国, 香港, インドネシア
松山 利夫	助教授 (第一研究部)	3. 8.12	3.10. 1	オーストラリア
杉村 棟	教授 (第二研究部)	3. 8.19	3. 9.21	ソ連
吉本 忍	助教授 (第五研究部)	3. 8.24	3. 9.18	スイス, デンマーク, アメ リカ合衆国
近藤 雅樹	助手 (第一研究部)	3. 8.26	3. 8.30	台湾
石毛 直道	教授 (第二研究部)	3. 8.28	3. 9. 8	台湾
江口 一久	助教授 (第三研究部)	3. 9. 1	3. 9.10	中国
周 達生	教授 (第一研究部)	3. 9. 4	3. 9.25	台湾
林 行夫	助手 (第二研究部)	3. 9.13	3. 9.27	タイ
宮本 勝	助教授 (第二研究部)	3. 9.14	3. 9.24	フィリピン

来館者抄

7月4日	尹 炳 鏞 (韓国, 釜山市立博物館館長)
7月15日	KOENTJARANINGRAT (インドネシア, インドネシア大学文学部名誉教授)
7月19日	中国出版代表団一行 団長 盧 玉 憶 (中国, 中華人民共和国新聞出版署副署長) 単 基 夫 (中国, 中国大百科

全書出版社社長)

薛 凡 (中国, 北京市新聞出版局局長)
千 金 蘭 (中国, 遼寧省新聞出版局局長)
石 峰 (中国, 中華人民共和国新聞出版署辦公室主任)
加 措 (中国, チベット自治区人民出版社社長)
馮 建 新 (中国, 商務印書館

- 編集者)
- 7月20日 **GESMANKIT, Kullasap** (タイ, 教育省芸術局局長)
- 7月27日 **TSHISHIKU, Tshibangu** (ザイール, キンジャサ大学総長, ザイール大学連合総長, アフリカ未来学研究所所長)
- 8月1日 **EOE, Soroi Marepo** (パプア・ニューギニア, 国立博物館館長)
- 8月2日 **AL AMRY, Hilal Muhammed** (オマーン, オマーン文学協会会長, サラーラ文化センター館長, 詩人)
- 8月2日 国際楽器博物館委員会一行
日ソ協会大阪府支部連合会ナホトカ子ども使節団一行 総勢25名
- 8月26日 台湾順益博物館に関わる類似施設視察訪問団一行
謝 克 村 (台湾, 林酒翁文教基金會經理)
游 浩 乙 (台湾, 林酒翁文教基金會総幹事)
陳 騰 蚊 (台湾, 林酒翁文教基金會副総幹事)
陳 文 玲 (台湾, 林酒翁文教基金會研究助理)
崔 伊 蘭 (台湾, 国立台湾大学所長)
石 磊 (台湾, 中央研究院研究員) 夫妻
高 而 潘 (台湾, 高而潘建築師事務所建築師)
頼 桂 玉 (台湾, 台湾乃村有限公司)
- 8月27日 中国人民銀行貨幣発行司司長一行
張 弘 (中国, 貨幣発行司司長)
屈 樹 珍 (中国, 錢幣管理处副処長)
張 双 想 (中国, 錢幣管理处副処長)
王 蘭 (中国, 外事局通訳)
王 安 (中国, 錢幣学会秘書処科員)
- 8月31日 加藤 孝治 (文化庁文化財保護部長)
- 9月2日 **DAS, Veena** (インド, デリー大学経理学院社会学部教授)
SHAHANI, Kumar (インド, 映画監督)
- 9月7日 プジ・クンタルソ (在日インドネシア大使) 夫妻
- 9月20日 中国現代美術大展組織委員会一行
董 王 允 (中国, 中国美術家協会会員, 中国美術館研究部主任)
羅 工 柳 (中国, 中国北京中央美術学院画家・教授)
曹 振 峰 (中国, 前中国美術館副館長, 中国民間美術学会副会長, 研究館員)
- 9月22日 中国音楽家代表団一行 団長
沈 亜 威 (中国, 中国音楽家協会副主席・作曲家)
謝 功 成 (中国, 中国音楽家協会湖北省分会副主席・作曲家・教育家)
高 偉 (中国, 中国映画楽団一級指揮者)
辺 多 (中国, 中国音楽家協会チベット分会副主席・作曲家)
邸 作 人 (中国, 中国音楽家協会甘肅分会主席代行・作曲家)
金 千 秋 (中国, 中国音楽家協会対外連絡部執行秘書)
- 9月26日 **DE SILVA, Nimal** (スリランカ, モラツィア大学建築学部長)
- 9月27日 **KARAGEORGHIS, Vassos** (キプロス, キプロス大統領顧問〈文化問題〉)
- 9月30日 フレデリカ デ・ラグーナ (アメリカ合衆国, プリンモア大学名誉教授)
ダイアナ プットマン (アメリカ合衆国, 静岡県立大学客員研究員)

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認めたる者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1

国立民族学博物館内

国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。
[柳田 1942: 67-69]
[Leach 1961: 123]
[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]
ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。
[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。

- (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
- (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。

欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13 (4): 311-330.

Bohannon, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14 (4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse. In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language, The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

1966 『文明をもった生物』日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

1974 『シャーマニズム——古代のエクスタシー技術——』堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 16卷3号

〔監 修〕

梅 棹 忠 夫

〔編集委員長〕

友 枝 啓 泰

〔編集委員〕

石 森 秀 三

江 口 一 久

大 塚 和 夫

崎 山 理

重 松 真由美

清 水 昭 俊

杉 島 敬 志

須 藤 健 一

田 邊 繁 治

田 村 克 己

長 野 泰 彦

福 井 勝 義

松 原 正 毅

宮 本 勝

平成4年3月11日 発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 16卷3号

編集・発行 国立民族学博物館
〒565 吹田市千里万博公園10-1
TEL 06(876)2151(代表)

印 刷 中西印刷株式会社
〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075(441)3155(代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.16 no.3
1991

- FUJII, Tatsuhiko Life of the Bolivian Peasants: An Analysis of
Diary Entries (2)
- KONAGAYA, Yuki Milking Ritual of Mares, Cows and Ewes in
Mongolia
- NAKAYAMA, Kazuyoshi Chieftainship and Christianity on Pohnpei and
Kosrae, in Micronesia
- GOTŌ, Toshifumi Materialien zu einer Liste altindischer Verbal-
formen : 4. *dogh/dugh/doh/duh*, 5. *sav/su*,
6. ¹*savⁱ/sū*, 7. ²*(savⁱ)/sū*

ISSN 0385-180X



National Museum
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151